

あとがき

ヒアリング対象については、限られた時間での作業となったことに加え、従来からの中部地方の強み分野である製造業を中心とした特定の業種や団体に限定されたものとなっている。特に研究開発や情報通信分野など新規産業分野へのアプローチが弱いと思われる。今後の追加の調査が必要である。

産業競争力の強化の分野では、地域の産業特長に応じ、今後の成長が期待される分野への効果的な支援が求められる。冒頭述べたように、産業の活性化のためには、高付加価値化、生産性の向上や新規産業の創出など産業界自体の主体的な取り組みの他、それを支援する規制緩和や R&D 支援施策などの制度的な環境整備、さらには産業競争力を支援する社会資本の整備といった総合的な対策が求められている。今回のヒアリングを機に、地域の産業特長にあわせた再生プロジェクトを関係者と連携しつつ作成していくことが必要である。

地域の魅力分野についても、2005 年には中部新国際空港の開港や日本国際博覧会（愛知万博）の 2 大プロジェクトを迎えることから、内外の人々からみて魅力を増すために、各地の観光資源のストック、今後の交通網の進展、ビジネス需要など地域の特性に合わせてハードとソフト施策の融合などきめ細かい処方箋が求められる。

（謝 辞）

21 世紀にふさわしい中部づくりをすすめる組織として、平成 13 年 3 月の「国土交通中部地方懇談会」が開催された。このなかで中部地方の経済団体、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、名古屋市および国土交通省の地方部局である中部運輸局、中部地方整備局が協同で、中部地方の将来像を示す「国土交通のグランドデザインの中部版（GD 中部版）」の立案をめざすこととし、GD 中部版の策定を協同作業で行う「国土交通中部地方懇談会フォローアップ会議」が設けられた。

本調査は、地域産業の空洞化などの課題克服に向けた産業競争力強化の支援や、国内外の交流の拡大にともなう地域の魅力向上の観点から社会資本のあり方を検討したもので、GD 中部版への施策反映のための基礎調査として行った。フォローアップ会議の参加団体の担当者からなる協働作業グループ『産業競争力班』を構成し、調査の進め方、ヒアリング方法、ヒアリング対象の選定や調査のとりまとめを行ってきた。関係者のご協力に厚く御礼を申し上げます。

また、本調査を進めるにあたり 50 を越える企業や各種団体にヒアリングをお願いした。貴重な時間を割いて、今後の企業戦略、地域戦略をはじめ、社会資本へのあり方に対するご意見、提言をたまわった。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。